

1 受動態とその用法

§ 1 受動態の基本

受動態の形

「～する」の意味を持つ能動態に対し、「～される」の受身の意味を持つものを受動態という。受動態は、「be + 過去分詞」の形で表す。だれによってそれがなされるのか(= 動作主)を示すためには、*by ~ (~ によって) を付けるが、この部分を省略する場合も多い。
*by 以外の前置詞を用いて動作主を表す場合もある。

Mary loves Tom. (能動態) Tom is loved by Mary. (受動態)

A metal that **is attracted** to magnets **is called** “magnetic”.
(磁石に引きつけられる金属は「磁気を帯びている」とよばれる。)

受動態の時制と意味

be 動詞の変化などによって、いろいろな時制・意味を表すことができる。
be 動詞に助動詞をつけることもできる。また、**be + being + 過去分詞**なら「進行形の受動態」であり、「～されているところだ」の意味になる。

現在	This room is cleaned every day.	(毎日掃除される)
過去	This room was cleaned yesterday.	(昨日掃除された)
未来	This room will be cleaned tomorrow.	(明日掃除される<だろう>)
現在進行形	This room is being cleaned .	(今掃除されているところだ)
現在完了	This room has already been cleaned .	(もう掃除されてしまっている)

I'm sorry, but your room **is still being cleaned**.
(申し訳ございませんが、あなたの部屋はただ今掃除中です。)

“We **will be eaten** by cats and foxes in the night!” said Philip.
(「夜に猫や狐に食べられちゃうよ。」とフィリップが言った。)

It **is said** that he is guilty.
(彼は有罪だと言われている。)

It **can be said** that he is guilty.
(彼は有罪だと言われうる。 有罪だということができよう。)

by ~ の省略

動作を行うのが一般の人 (we, you, they) の場合や不明の場合、by ~ は省略される。

They speak German in Austria.
German is spoken (by them) in Austria.

上記の例文では, (by them) は省略するのが普通である。them とは, オーストリアの一般の人々を指すからである。

We make milk into butter. (私たちはミルクをバターに加工する。)

Milk is **made** into butter. (ミルクはバターに加工される。)

Someone stole my bike yesterday. (だれかが昨日私の自転車を盗んだ。)

My bike **was stolen** yesterday. (私の自転車は昨日盗まれた。)

否定語の位置

否定語が主語のときの能動態の文を受動態にするには, **by+否定語** を避ける。

Nobody liked him. (だれも彼を好きでなかった。)

He was **not** liked by **anybody**. (彼はだれからも好かれなかった。)

Ⓔ He was liked by **nobody**.

群動詞の受動態

群動詞は一つの外動詞と考えて受動態を作ることができる。

She **took care of** the baby.

The baby **was taken care of** by her.

She **was taking care of** the baby. (彼女は赤ちゃんを世話しているところだった。)

The baby **was being taken care of** by her.

(赤ちゃんは, 彼女によって世話されているところだった。)

The players **look up to** the coach. (選手たちはそのコーチを尊敬している。)

The coach **is looked up to** by the players.

(コーチは選手たちに尊敬されている。)

疑問詞を含む受動態

疑問詞を文頭に置き, be 動詞を主語の前に置く。

• **Where** did Tom see you? (トムはどこであなたを見たのですか。)

Where were you seen by Tom? (あなたはどこでトムに見られたのですか。)

Who から始まる疑問文からは, 受動態の文が2つできるが, 前置詞を後に置くほうが口語的である。すなわち, 下記の(1)(2)の文では, (2)のほうが口語的である。

Who wrote this poem?" "Mitsuo Aida did."

(「だれがこの詩を書いたのですか。」「相田みつをです。」)

(1) "**By whom** was this poem written?" (この詩はだれによって書かれたのか。)

(2) "**Who** was this poem written **by**?" (この詩はだれによって書かれたのか。)

"It was written by Mitsuo Aida."

§ 2 受動態の種類

受動態の文型

能動態の文の目的語を主語にするのが、受動態である。すなわち、～の5文型からOを1つ抜いてSにまわすと、受動態になる。すると以下の表のように、受動態の取りうる文型がわかる。

S+V	受動態なし
S+V+C	受動態なし
S+V+O	S+V
S+V+O ₁ +O ₂	S+V+O ₁ および S+V+O ₂ (2つできる)
S+V+O+C	S+V+C

第3文型

Everyone likes him. He is liked by everyone.
 S V O S V

第4文型

He gave me a book. 以下の2つの受動態の文ができる

I was **given** a book by him. (私は彼から本を与えられた もらった。)
 A book **was given** (to) me by him. (本が彼によって私へと与えられた。)

第5文型

We call the dog Jacky. The dog is called Jacky (by us).
 S V O C S V C

使役動詞・感覚動詞の受動態

使役動詞の make (～させる) や、知覚動詞 see, hear, feel 等 を用いた第5文型の文(SVOCの文)が受動態になると、Cのところにあった原形動詞は、to不定詞になる、というルールがある。

They made Tom **work** all the day. (彼らはトムを1日中働かせた。)
 Tom was made **to work** all the day. (トムは一日中働かされた。)

I saw him **play** the guitar. (私は彼がギターを弾くのを見た。)
 He **was seen to play** the guitar. (彼は私にギターを弾くのを見られた。)

命令文の受動態

命令文の内容を，受動態の文で書くには，**let** を用いる。

Do it at once. (すぐにそれをしなさい。)

Let it be done at once. (直訳：すぐに，それをなされた状態にさせなさい。)

They say...の受動態

say, believe, expect, think, know などの動詞は，形式主語 it を使った受動態と，目的節の主語を文の主語にして不定詞を用いた受動態の2つができる。

They say... (～だそうだ) の文は，次のような2つの受身ができる。

They say that he is very rich. (SVOの文。Oは目的節。)

(彼は大金持ちだそうだ。)(直訳：彼は大金持ちだと，彼らは言う。)

形式主語 It を用いた場合：It **is said** that he is very rich.

目的節の主語 he を主語として不定詞を用いた場合：He **is said** to be very rich.

いずれも受動態の文は，「彼は大金持ちだと言われている。」が直訳である。

§ 3 受動態の特殊な用法

by 以外の前置詞をとる受動態

受け身というと by ~ がセットになってついてくるようなイメージがあるが、by 以外の前置詞をとるものもある。これらは be interested in 「～に興味を持つ」のように熟語として覚えるほうがいいだろう。日本語では能動態で表現するために、受け身といってもピンとこないものが多いが、英語では interest や please が「興味を持たせる」「喜ばせる」のように他動詞であるため、受け身にせざるを得ないのである。

< 参考 >

- * by ~ は動作主を表すので、by の後ろには「人」がくることが多い。逆に、by 以外の前置詞を使うなら、人間以外のものがくることが多い、ということがわかる。
- * 日本語の「驚く」「興味をもつ」「がっかりする」「喜ぶ」の表現は、英語では「驚かされる」「興味を持たされる」「がっかりさせられる」「喜ばされる」というふうに表現する。これは、英語に、例えば「がっかりする」という自動詞がなく、「がっかりさせる」という他動詞が定着しているため、これを受動態にすることで「がっかりさせられる がっかりする」という表現を作るのである。このような動詞には、以下のようなものがある。

interest(興味を持たせる), please/delight(喜ばせる), satisfy(満足させる)

frighten(おびえさせる), confuse(混乱させる), astonish(驚かせる) 等

by 以外の前置詞をとるものとして、以下のような表現を覚えておくとよい。

be interested in ~	(~ に興味を持っている)
be covered with ~	(~ で覆われている)
be filled with ~	(~ で満ちている)
be full of ~	
be pleased with ~	(~ で喜ばされる = ~ に喜ぶ)
be delighted with ~	(~ に喜ぶ)
be satisfied with ~	(~ に満足する)
be surprised at ~	(~ に驚く)
be astonished at ~	(~ に驚く)
be frightened at ~	(~ におびえる)
be made of ~	(~ で作られる) 材料
be made from ~	(~ で作られる) 原料
be involved in ~	(~ に巻き込まれる , かかわりを持つ)

He **was not satisfied with** the result of the test.

(彼は、テストの結果に満足しなかった。)

She **was surprised at** the gift I had sent her for Christmas.

(彼女は、私がクリスマスに送ったプレゼントに驚いた。)

☐ 一般に、「驚く」のように一時的な感情には **at** が、「喜ぶ」「満足する」のような持続的な感情には **with** が用いられる傾向がある。

能動受動態

能動態のまま受動態の意味を表す**能動受動態**というものがある。

sell (売れる) **read** (読める) **cut** (切れる) などがある。いずれも自動詞である。

Onions **cook** more quickly than we think.

(タマネギは思っているより早く煮える。)

This knife **cuts** well. (このナイフはよく切れる。)

The cloth of this kind **washes** easily.

(この種の布は簡単に洗える = 洗うと簡単に汚れが落ちる。)